

- 語り合う
- 生命誌の広場
- 中村桂子の「ちょっと一言」
- ラボ日記
- 表現スタッフ日記
- さまざまな交流
- 生命誌のこれからを考える

生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」
- 研究について
- 季刊「生命誌」
- 展示・映像
- その他

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日 [この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日 [この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月 GO

みなさんからのご意見



中村桂子の「ちょっと一言」

「戦争中の暮らしの記録」に・・・

投稿日：2017.08.16 ニックネーム：Teru

中村先生の暮らしの記録・・・8月15日にふさわしい内容ですね・・・
 私は兄たちの疎開している滋賀県の真野・和邇のお寺に母につれられ行ってきました・・・
 一升瓶にコメを入れ、棒で糠をとっていましたね・・・
 電灯は黒い布でカバーしてました・・・
 配給品はコメ・・・「米穀通帳」を持っていかないと・・・
 今で言えばマイナンバー的に使えました・・・
 移動しても使えたからですね・・・
 豆はどういうわけか・・・皮だけ売ってました・・・兵隊さんに使うからと言っていました・・・
 芋粥・・・麦飯・・・そうそう・・・塩と砂糖も配給品でした・・・破れたく靴下は適当に布をあてて縫う・・・
 草履を足を使って編むことも教えられましたね・・・
 母はなんでも出来ましたね・・・男5人兄弟でした・・・今、3人になりました・・・(合掌)

お返事

投稿日：2017.08.17 名前：中村桂子館長

日本中で子どもたちは同じ体験をしていたのですね。「母はなんでも出来ました」という言葉も共有体験のように思います。私もそう思います。ただ、年老いてからの母がある時ポツリと「あの体験はもうイヤ。もう一度戦争が始まったら、死んだ方がいいわ」ともらしたのが忘れられません。



中村桂子の「ちょっと一言」

生物多様性農業

投稿日：2017.08.05 ニックネーム：花置人

お体がすっかり回復されたようで良かったですね。
 雲仙のお話を楽しく読ませていただきました。
 私は退職後に会社で経験できなかったことををと思い、70坪ほどの畑での野菜作りとバラ園での育成ボランティアを楽しんでおります。
 「生物多様性農業」という言葉を初めて知りました、確かに畑やバラ園では会社時代には会うことのなかった多様な生物（もちろん人間も含めてですが）との出会いがあります。
 学生時代は京都に6年間おりましたので聖護院カブ、九条ネギなどの京野菜を懐かしんで作りますが、どうも本場の味を出すことができません。
 北海道のキタアカリ、堺の水ナス、群馬の下仁田ネギいずれもそうです。
 ただ大豆のフクユタカは九州で作出された品種ですが当地（三重県）でも美味しく育ちます。
 ただし九州同様火山性の黒ボク土壌での栽培が必要です。
 「野菜の味は風土の恵み」を実感します。



新着情報



[10月19日生命誌オープンラボ \(19.10.01\)](#)

[10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会\(19.10.01\)](#)

[昆虫脳の標本展示が登場！\(19.10.01\)](#)

[パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始\(19.10.01\)](#)

[あくあびあ芥川とスタンプラリー開催\(19.10.01\)](#)

お返事

投稿日：2017.08.07 名前：中村桂子館長

ありがとうございます。農業は人間が美味しく食べられるもの、つくりやすいものを選びましたので、自然の多様性を絞り込みました。それでもその土地に合ったものを選んでいく間は多様性があったのですが、経済一点ばかりになってからは均一化の道をまっしぐらになりました。面倒なことですが、本当の味を求め、自然を生かすことを考えると、多様性をもう一度見直す時になっているのだらうと思います。今回書いて下さったように現場へ行くと、その大変さはよくわかるのですが。

その他

生命の誕生

投稿日：2017.08.03 ニックネーム：ようちゃん

生命の誕生を追及しています。主眼は、L-体アミノ酸の生成理由解明です。パンスペルミア説がありますが、地球外宇宙では、DL-体アミノ酸がほとんどのように見受けられます。なぜ地球でのアミノ酸がL-体のみ合成されるのか、その外的環境（磁気、歳差運動、偏光、金属触媒、など）を探索しています。深海でのチムニーによる微生物は、アミノ酸構成比とか先生のかかれた反応ですと、メタンと硫黄によるように書かれていますが、窒素は深海に存在しないのでしょうか？
深海生物のアミノ酸構成がわかりましたら教えてください。

お返事

投稿日：2017.08.23 名前：表現を通して生きものを考えるセクター川名

当館のホームページをご覧いただきありがとうございます。お返事が遅くなってしまいすみません。無生物の世界からどのように生物が誕生したのかは生命誌の中でも興味深い問いです。ご質問の窒素（N）についてですが、深海の熱水噴出孔ではNH₃が存在していますし、生命にとって窒素は不可欠です。（2014年にJAMSTECが「35億年前の熱水環境下で窒素固定ができるのか」確認する研究を行っています）また、現在の地球の生きものは深海生物も含め、共通の20種類のアミノ酸を使っており、その全てがアミノ基（NH₂）をもちます。無機物から複雑な有機物がどのようにしてつくられていくようになったのかその過程を考える時に、メタンやアセトンがひとつの起点として注目されていますが、窒素やリンなども生きものに欠かせない構成要素です。

▲ ページの先頭へ